

令和3年4月8日

令和3年度第1学期始業式 校長講話

校長 新井和徳

新転任の先生方をお迎えして今日から新しい学年が始まります。3年生は、最終学年となり本格的な受験体制に入ります。2年生は、あらゆる場面で自主的な活躍が期待される学年です。また、本日午後、新入生が入学します。越谷南高校への憧れをもって入ってきます。皆さんは、先輩として、その“背中”で範を示してください。

さて、新型コロナウイルスの感染者は国内で50万人達し、死者数も9千人を超えています。最近では大阪など大都市の感染者が急増し、第4波の兆候が見られます。そして、更に警戒しなければならないのは複数の変異株ウイルスです。それらは、感染力が従来型より36～75%も高いと言われ、十代の若者にも感染が広がっているのが特徴です。我々は、これまで以上に感染対策を徹底しなければなりません。特に注意すべきことを3つ上げます。

- ① 毎日の健康観察を徹底し、本人及び家族に体調不良がいた場合には、登校を控えてください。
- ② 部室の使用では密にならないように工夫し、大声でおしゃべりをしないようにしてください。
- ③ 学校でマスクを外すときは昼食の時です。昼食時は前を向いて黙食するようにしましょう。

マスクや手洗いの習慣はすっかり身につけてきました。でも、なぜ、このような対策をしなければならないのか、疑問に思ったことはありませんか？

普段から対策を徹底しているからとって、感染しないとは限りません。また、無症状・無自覚のまま人に感染させているケースもあるようです。コロナとの共存の道を選んだ以上、誰が罹っていてもおかしくありませんし、誰がうつしていてもありえないことではないのです。ですから、社会全体として拡大を最小限に防止するのが、コロナ対策の大きな狙いなのです。

ところで、コロナ対策は、徹底してほしいのですが、必要以上に人と距離を置くことにより、将来コミュニケーションに問題が生じないかと心配になることがあります。人や社会が本来持っている優しさを失わないでほしいと願います。そこで、皆さんにエピソードを一つ紹介します。この話は、あるご婦人がバスの中で経験した時の話しです。

.....

ある冬の日の事です。私は、体調を崩し、中野坂上の病院に通院していました。その日は今にも雪が振りそうなどとても寒い日でした。病院の診察を終えて、いつものようにバス停から混み合うバスに乗り込みました。バスが静かに走り出した時、後方から赤ちゃんの火のついたような泣き声が聞こえました。

バス内の熱気で、赤ちゃんにとっては、苦しくて、泣く以外方法がなかったのだと思います。バスが次のバス停に着いた時、後方から「待ってください。おります。」と若い女の人の声が聞こえました。そのお母さんが運転手さんの横まで行くと、運転手さんは「どこまでいくのですか？」と聞きました。その女性は、気の毒そうに小さな声で、「新宿駅まで行きたいのですが、子供が泣くのでおります。」と答えました。すると運転手さんは、「ここから新宿駅まで歩いてゆくのは大変です。目的地まで乗ってください。」とその女性に話しました。

そして急にマイクのスイッチを入れてこう言いました。「みなさん、このお母さんは、新宿まで行くのですが、みなさんに迷惑がかかるので、ここでおりると言っています。赤ちゃんは泣くのが仕事です。どうぞみなさん、少しの間、赤ちゃんとお母さんを一緒に乗せてあげてください。」

ほんの数秒が過ぎた時、一人の乗客が拍手をしました。それにつられてバスの乗客全員が拍手をしたのです。その拍手は、「かまわないから乗っていきなさい」という返事となったのです。若いお母さんは、何度も何度も頭を下げていました。

今でもこの光景を思い出しますと、目頭が熱くなります。とても大切な思い出です。

.....

このエピソードにどんなことを感じましたか？

今、コロナ禍で、人々がいつも不安を抱え、ストレスを感じています。そんな時でも、バスの話のような優しい光景が見られたらほっとしますね。今日から新しいクラスで、新しい仲間との出会いがあります。優しさのあるすばらしい人間関係を築いていってください。